

玄界灘における対馬暖水の流動変化が マアジ漁場形成に及ぼす影響

安藤 朗彦^{1, 3}・石坂 丞二²・中田 英昭³

(¹研究部・²名古屋大学地球水循環研究センター・³長崎大学水産学部)

玄界灘におけるマアジ漁業への対馬暖流の影響を調べるために、2000～2005年の各年5月に操業されたまき網のマアジ漁獲状況と衛星による海面水温の関連を整理した。5月のまき網漁船の操業記録から日別に各漁獲位置をマアジの漁獲量で加重平均して代表位置の分布を求めた。この代表位置の分布は、壱岐北東の海域に集中して分布するパターンと海域の南北に分散するパターンの2

つに大別された。月平均の衛星海面水温分布の解析から求めた対馬暖水の位置も接岸パターンと離岸パターンに大別されることが分かった。対馬暖水が接岸パターンの年は漁場が集中し、離岸パターンの年は漁場が南北に分散していたことから、対馬暖水の位置はまき網漁業におけるマアジの漁場形成に強い影響があると考えられた。

水産海洋研究第75号(3), 154-160(2011).

直売所への水産物出荷が漁家経営に与える影響

徳田 眞孝^{1a}・日高 健²・濱田 豊市^{1a}・佐藤 利幸¹

(¹企画管理部、²近畿大学産業理工学部)

農水産物直売所は、零細な生産者の重要な出荷先として位置づけられ、地域によっては農産物と同じく小規模漁業者の重要な出荷先の一つとして安定した地位を獲得するに至っている。水産物直売所の先行地域と言ってもよい福岡県を対象として、出荷先選択と経営効率(生産性)の二つの面から直売所が漁家経営に与える影響について明らかにした。第一に、漁業者は直売所と卸売市場への出荷について、商品嗜好性に合った漁獲物の出荷先選択を行っていた。この使い分けは直売所と卸売市場の双方に便益を与えている可能性がある。多品種少量で消費者が直接購入するのに適した魚種、すなわち卸売市場の取扱いに適さない魚種が直売所に出荷され、結果的に

卸売市場には多量に漁獲されロットとしてまとまる魚種が出荷されることになる。第二に、直売所出荷には市場出荷以上の多大な経費が投じられており、また、通常の労働に加えて多大な労働が付加されていた。直売所出荷の営業利益は出ているものの、市場出荷という選択肢から生じる機会費用を控除するとわずかであり、直売所出荷が圧倒的に有利ということではない。ただし、自家労賃は漁家内での潜在労働力を顕在化させて価値実現につなげている点を考慮すると、費用としての自家労賃は大きいものの決してコストエンジンということではなく、漁家における家族労働の価値実現である。

地域漁業研究, 51(3), 105-123(2011).

^a 現所属：豊前海研究所